持続可能な開発目標を達成するためのロシア企業の取り組み(要旨)

ロシア科学アカデミー中国・現代アジア研究所 学術秘書・上級研究員
ザハロフ リュドミラ

本稿では、持続可能な開発目標(SDGs)を事業活動に導入するロシア企業の政策と取り組みを分析した。2010年代には、ロシアの大企業は、SDGsを企業戦略や報告書類に盛り込み、この分野の責任を経営陣のより高いレベルに移行し、SDGsの要件に従って製品やサービスを改善し、環境や社会への自社のインパクトの観点からさまざまなプロジェクトに資金提供を行っている。

ロシア企業は、持続可能な開発アジェンダを業務に導入するためのアプローチや戦略を説明する際に、「ESG」(環境、社会、企業統治)という用語をよく使用する。これは、環境への配慮、従業員や顧客に対する責任ある姿勢、企業の透明性のある業務、慈善活動への参加など、彼らが重視する主要な優先事項を反映している。2020年代初頭には、ロシア企業はESGの社会的側面、すなわち、従業員への支援、従業員の研修、労働保護、事業展開地域の開発に、より重点的に取り組もうとしていることが分かる。

ロシア企業がSDGs達成に向けた取り組みを行っていることを示す事例は数多くある。国営企業は政府の方針を反映しているが、各企業の優先事項は業界によって大きく異なる。本稿では、ロシア初の「持続可能な開発のための2030アジェンダ実施状況に関する自発的国別レビュー」に基づき、SDGs達成に向けたロシア企業の優れた取り組み事例を紹介する。